

10年後の時代を切り開く 〈安全を創る技術〉

私の希望的視点から

栗原典善 Noriyoshi KURIHARA

航空機、電車、自動車など、人の発明したモノによって、人が自由に移動ができるようになって、確かに私たちの生活は格段に便利で快適になった。それもたかだか100年の間に。今から10年後の2024年、わが国ではリニア新幹線の工事も本格的に始まり、新しい交通社会の幕開けを象徴するような出来事が進行している時期かもしれない。最近、ソーラーをパワー源にした飛行機も世界一周ノンストップで飛べたりと、夢のような話が現実になった。（そもそも太陽光を電気に変える技術は少し前の一般人には想像がつかなかったことかもしれない。）こういった事象から推測すると、ITが発達して、コンピュータや通信機器が急速に私たちの生活に入り込んでその生活を一新してきたように、道路における車両交通でも革新的な変革が起きているのかもしれない。

現状の道路の問題は、事故率がほかの交通機関に比べて非常に高いということ。道路という同じ空間を、いろいろな人が移動速度も違う乗り物を操作して行き交う、という複雑な混合交通はある種、事故が起きてもしかるべきともいえる。事故は、スピードをコントロールできない、操作を誤った、障害物を認知できなかったなど、人為的ミスが原因のほとんどだ。また原因をほかの視点から調べてみると、そういったミスの他にも事故を想定していなかったうっかり設計も多く、まだまだ解決方法はあるのではないか。おりしも高速道路のガードレールの先端に居眠りした運転手のバスが追突し、多くの犠牲者が出るという大事故が起ってしまったが、少しの改善でたとえぶつかっても命を落とすほどではなかったのではと思う。10年後にはこういった過去の教訓から、道路と乗り物のイ



株式会社NORI INC. 会長兼デザインディレクター

ンテリジェント化によって安全な交通環境を整えなければならないと考える。クルマは現在、急速に進んできたパッシブセーフティストップの技術がさらに発展して、ほぼ絶対ぶつからないクルマというものが出来て、それが急速に普及することになるだろう。日本の技術を製品につなげる創意は大きなポテンシャルになると思う。

〈安全を創る技術〉は、日本の社会を発展させてきた上でも密接にかかわりがある。50年もの長きにわたって無事故の新幹線の例をとっても、その〈安全技術〉は高い評価と共に日本経済を支えてきた。今後も多方面でこのような日本の安全性・先進性を追求する新たな取り組みの成果を生かせると期待する。〈安全技術〉の分野では最先端を行って世界のリーダーとなっている可能性が大きいと思う。新たなビジネスを切り開くカギになるのではないかと思う。10年後の理想的な交通社会は〈安全を創る技術〉をもとにIT環境を整え、エコで地球環境に配慮し、運転の楽しさを味わえ、事故の起きない快適な道を整備し、しかも誰もが低コストで自由にその恩恵を享受することだ。その道も単なる移動システムのベースとしてではなく、道の駅のように生活に彩りを添える施設を増やすことや、クルマで宿泊する旅の駅としても機能できるように、生活における新たな価値を創造することが望ましい。国民が安全な環境下で自由平等で健康的な生活が送れる、そのための交通社会であってほしいと願う。

本田技術研究所勤務の後、1979年イタリアのデザイン会社、82年ヨーロッパフォード技術開発研究所（イギリス・ドイツ）を経て、86年日本に帰国。デザイン会社DCIを設立、その後2001年デザイン会社(株)NORI INC.を設立。現在に至る。
(顧問/1992年会員就任)